

日時：平成27年5月25日(月) 15:30~17:15

場所：札幌第一合同庁舎2階講堂（札幌市北区北8条西2丁目）

人数：参加29名(23団体)、傍聴115名 計144名

(報道機関：NHK、北海道新聞、日本経済新聞、北海道建設新聞など 9社)

座長挨拶：北海道大学名誉教授(前北海道大学総長) 佐伯 浩 氏

- ・地球温暖化の対策には、できるだけ早く温室効果ガス排出を削減する必要がある。
- ・安全性、コストに関して、社会が水素を容認できるような技術開発が必要である。
- ・本プラットフォームを、知識を高め、水素を活用する社会の実現に向けた知見を得る場にしたい。



設立目的及び活動方針などの説明(北海道局)

- ・北海道に豊富に賦存する再生可能エネルギーの活用を水素を利用することにより促進させ、水素を活用した地域づくりを検討するとともに、水素の製造・利用に係る事業の振興を通じて地域に貢献。
- ・東京オリンピック・パラリンピックに向けた水素活用技術の進展を見据え、平成31年までの5年間の活動を予定。

基調講演：「北海道における再生可能エネルギーと水素のさらなる活用の可能性」

北海道大学大学院 工学研究院教授 近久 武美 氏

- ・自然エネルギーの割合を50%程度まで増加させても、一定の仮定の下ではコストはそれほど高いものではない。
- ・現在の仕組で儲かっている産業が今後の変化の中で減収する場合、新しい水素ビジネスにスムーズに移行・参加できる政策が必要。



講演：「風力電力を活用したグリーン水素製造事業等について」

豊田通商(株) 羽田 裕 氏

- ・風力を活用したグリーン水素製造のNEDO技術実証プロジェクトを苫前町において実施しており、本プラットフォームとも連携する機会が出てくると思う。
- ・当社が本プロジェクトに参加しているモチベーションは、北海道がグリーン水素の一大生産地になり得るという想いであり、まず地産地消による地域経済の活性化を実現し、将来は余剰分を道外へ販売していくことも視野に入れていきたい。



講演：「再生可能エネルギーを活用した東芝の水素社会実現に向けた取組」

(株)東芝 大田 裕之 氏

- ・水素を用いた自立型エネルギー供給システムを用いたBCPシステム(7日間、300人分の電気、湯を供給)が、川崎市において稼働中。
- ・北海道においても、同システムを用いて地域強靱化、エコリゾート開発や水素ステーション設置などの可能性。



視察報告：「九州における水素の取組みについて」(北海道開発局)

- 福岡県を司令塔、九州大学をシンクタンクとする水素エネルギー分野における我が国最大の産学官連携組織「福岡水素エネルギー戦略会議」が展開する「福岡水素戦略～Hy-Lifeプロジェクト」の取組を紹介。

意見交換

- 日照時間が長い十勝の太陽光発電の利用や鹿追の家畜ふん尿からの水素など、クリーンな十勝をつくっていききたい。(池田町)
- 3月に温暖化対策推進計画を策定し、2050年まで温室効果ガス80%削減が目標。来たる水素社会に向けた調査検討を進め、札幌型スマートライフスタイルの定着。(札幌市)
- 地球温暖化対策の旭川版を今年度中に策定する予定。旭川の地域特性を活かした再エネ利用を目指す。水素は産業、雇用、などまちづくりに有用。(旭川市)
- 低炭素都市を目指した「グリーンエネルギータウン構想」を2月に策定。来年3月に移動式水素ステーションの設置やFCVの導入を予定しており、北海道における普及啓発に活用する考え。(室蘭市)
- 風力発電は現在の76MWを2年後に106MWに、2019年には550MW級に。発電基地を目指して水素製造等の役に立てるよう進めていきたい。(稚内市)
- メガソーラーや木質バイオマス発電所など再エネ誘致に積極的に取り組んでいる。貯蔵・輸送の拠点として高いポテンシャルがあり、水素サプライチェーンの構築に寄与。(苫小牧市)
- 自治体、市民、民間企業の参画による北海道型のビジネスモデルを考える必要がある。(北海道局)
- 苫東地域には様々なエネルギー供給源、及び需要となる産業があり、実証実験のステージなどで貢献したい。(株苫東)
- 風力発電設備の製造や金属と水素の関係の研究実績などを有しており、プラットフォームに貢献したい。(株日本製鋼所)

